

福山市公共施設照明設備LED化整備事業に関するサウンディング型市場調査の結果について

1 サウンディング実施の経緯

本市は、福山市公共施設照明設備LED化整備事業を行う事業者の公募に向けて、本市のニーズと事業者のニーズを可能な範囲で両立させる条件を整理するため、また効率的かつ効果的な事業実現のために、事業者の皆様からの御意見を聴取するサウンディング型市場調査を実施しましたので、その結果を公表します。

なお、本調査においては、公表内容以外にも多くの御意見・御提案をいただきましたが、参加事業者の知的財産保護の観点から、参加事業者の承諾を得た内容のみを公表します。

2 サウンディング実施期間

2024年（令和6年）9月25日（水）～9月30日（月）

3 参加事業者（グループ）数

12事業者（グループ）

4 サウンディング結果の概要

（1）最適な事業手法について

【従来型工事方式】

- ・イニシャルコストは掛かるが、リース方式と比べランニングコストを考慮すると安くなる。
- ・図面の作成が必要で発注までに時間がかかるため、2027年度末までの期限に間に合わない可能性がある。

【DBO方式】

- ・多種多様な施設を一元的に調査・設計・施工・管理できるため、早期にLED化が可能。

【ESCO方式】

- ・多種多様な施設を一元的に調査・設計・施工・管理できるため、早期にLED化が可能。
- ・エネルギー削減保証があり、市の財政負担を抑えられる。
- ・ギャランティード・セイビングス方式は、シェアード・セイビングス方式と比べ初期投資は必要になるが、起債の借入れが見込める。
- ・シェアード・セイビングス方式は、初期投資が抑えられ、均等払いで財政負担の平準化が可能。
- ・エネルギー削減保証を行うため、リース方式と比べランニングコストが大きくなる可能性がある。
- ・福山市で発注された福山市北部市民センター照明更新型ESCO業務（2024年（令和6

年) 4月8日公告)と同様の方式であれば、ランニングコストが最小限となる上、市内事業者で実施できる。

**【リース方式】**

- ・初期の財政負担が少なく、費用の平準化が可能。
- ・長期的には財政負担が大きくなる可能性がある。

**【その他】**

- ・一括発注とした場合は、スケールメリットによる市の財政負担を抑えられると考える。
- ・一括発注とした場合でも、市内事業者の共同企業体を組織すれば対応できると考える。
- ・エリア又は施設区分別の分割発注とした場合は、市内事業者単独でも対応できると考える。
- ・設計内容を含む場合は、価格のみを比較する競争が難しいため、公募型プロポーザル方式による選定が良いと考える。

**(2) 公告時に必要な最小限度の情報について**

**【施設既存情報】**

- ・アスベスト調査資料
- ・足場や高所作業の情報(取付高さ等)
- ・PCB使用機器の有無
- ・最新の施設図面
- ・断面図
- ・対象施設の階数、建設年、延べ床面積
- ・非常電源装置の情報
- ・原図、照明姿図
- ・外灯の資料

**【施工条件】**

- ・施工可能日、時間(平日、日中作業の可否)
- ・資材置場の提供可否
- ・LED照明の要求仕様(誘導灯等)
- ・アスベスト関連費用の明確化
- ・成果物(施工図の簡略化等)の明記
- ・各施設のLED施工終了次第の引き渡しの可否

**【プロポーザル方式の要件】**

- ・ウォークスルーや代表施設の現場調査の有無
- ・正確な消費電力算出のため、照明のランプ数やワット数、照明使用時間等の資料

**【LED導入効果の検証を求める場合に必要な情報】**

- ・省エネルギー効果の検証結果などの明確な要求内容提示
- ・対象施設の年間照明使用時間
- ・電気料金の試算用の資料
- ・ランプ交換関連費用等の年間維持管理費

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (3) 事業完了までのスケジュールについて                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一括発注でも共同企業体を組んでエリア毎に仕上げる方法で実施可能。</li> <li>・対象施設の照明の要求仕様を考慮し、施設区分ごとに施工業者を分けることで、工期短縮を図れる。</li> <li>・2025年度から2026年度にかけて調査・設計し、2026年度から2027年度で施工する。</li> <li>・公告時の資料にもよるが、詳細調査は2か月～6か月必要。</li> <li>・施設ごとの打合せ1か月、製品供給2～3か月、施工期間は小規模施設で2日程度、中規模施設で5日程度、大規模施設で1か月～2か月と予想する。</li> <li>・比較的設計・施工の容易な小規模施設は2025年度から順次実施できると考える。</li> </ul>                                                           |
| (4) 市内事業者の活用について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・市への経済効果を考慮し、市内事業者で共同企業体の管理体制を組み、施工についても市内事業者を複数活用する。</li> <li>・市内に本店を有する事業者が競争できる発注方法や、区域分けでの分割発注が良いと考える。</li> <li>・市場状況に応じ、施設単位で市内事業者を下請けとして活用する。</li> <li>・プロポーザルでの業者選定の場合、応募条件に市内事業者の活用を盛り込むとよい。</li> <li>・施工について市内事業者を下請けとして活用するが、市内事業者の工事負荷が高い場合には市外事業者も考慮する必要があると考える。</li> <li>・施工時期によっては、同様の工事が多くなるため、施工業者の主任技術者が不足し、市内事業者の活用が困難な場合もある。</li> <li>・保守の観点から、市内事業者であれば対応が速い。</li> </ul> |
| (5) その他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザルでの業者選定の場合、評価基準の明確化が必要。</li> <li>・資材高騰と、同様の工事の増加によるLED照明の供給不足が懸念される。</li> <li>・既設照明器具の改造とした場合、器具保証ができなくなる懸念がある。</li> <li>・外灯は灯具交換と考えるが、ポールが経年劣化等により再利用不可である場合を考慮する必要がある。</li> <li>・灯具の種類が多く、対応メーカーが限られるため、灯具の同一メーカー縛り等はやめてほしい。</li> <li>・主任技術者について中途での変更を可として欲しい。</li> <li>・発注手法によっては、市内事業者への恩恵が受けられない。</li> </ul>                                                                     |

## 5 サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディングにより、最適な事業手法や公告時に必要な最小限度の情報について等、様々な御意見や御提案をいただきました。

今後、サウンディング結果を踏まえて、事業方針や公募条件の整理・検討を進めます。